

2019年6月

一般社団法人日本ELVリサイクル機構
代表理事 酒井 康雄

火災に関する注意喚起

平素は当機構の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年5月、自動車関連工場での火災事故が2件あり、うち1件は当機構会員事業所で発生したものでした。消防署の報告によると、燃料処理の方法に特段問題はなく、静電気による自然発火が原因とのことでした。また、作業場の整理整頓がされていなかったために、すぐに消火することができなかったという情報も入っています。

幸いにも今回の会員事業所の火災において怪我人等の人的被害はありませんでしたが、このような火災事故は人命にも関わる深刻な問題であり、当機構としても自動車リサイクル業界への信頼が失われかねない重大案件と捉えております。

- 近くに火元がなくても静電気で発火してしまうケースがあること
- 作業場の整理整頓がされていないと、火が燃え広がる原因となり、消火活動の妨げにもなること

以上の2点を念頭に、当機構会員の皆様におかれましては、日頃から安全作業を徹底してくださっていることとは存じますが、いま一度現場での火災予防措置をご確認いただき、適正業務・安全作業の徹底をお願い申し上げます。

【参考情報】

ご参考までに、会員から寄せられた「携行缶への燃料仕分け中の火災予防対策」についてご紹介いたします。

弊社では、燃料は燃えるものという前提で、万が一静電気による自然発火が起きても燃料が床を伝って燃え広がらないように、工場床の2メートル四方の排水溝と排水溝の中だけを燃料仕分け場所として限定し、周りにはタイヤや繊維物、木材などは何も置かないようにしています。

以上